

明けましておめでとうございます。新年を迎え、一層気力を充実して本校の充実・発展に努めたいと思います。先生方には、適度に休養を取りながら鋭気を養い、着実な教育活動をお願いいたします。今年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

終業式(12月25日<大志を抱け>)

札幌農学校にやって来たウィリアム・クラーク博士は、農学校の学生に「大志を抱け」と励ましたということです。札幌農学校は現在の北海道大学です。クラーク博士の言葉は非常に有名で、皆さんも何度か耳にしたことがあるかと思います。「少年よ大志を抱け」(ボーイズ・ピ・アンビシャス)です。大志とは、大きな目標のことです。

大きな目標をもつことは非常に大切です。レスリングのバンタム級フリースタイルで、東京とメキシコの2大会連続金メダルを獲得し、足利の教育委員長も務めた小幡洋次郎(ニューミヤコホテル社長)さんが講演の中で話されています。大きな目標をもっていると、誘惑に負けない、簡単には達成できないのでひたむきになって頑張れる、強い精神力も培われる、と。

間もなく新年です。新年を迎える皆さんに、私も言いたい。「西中生よ大志を抱け！」

最近の子供は夢がない、生き方が刹那的(せつなてき=目の前の快楽を求めている)との声も聞きますが、子供は本来、夢や希望をもって生きる存在です。そうでないのは、そうさせられない社会や我々の方に否があるように思います。

生きる力

生徒指導主事だった頃、各種の問題が発生する度に、どうしてこういうことが起きるのかと考え続けていました。そして、たどりついた結論は、生きる力がついていないということでした。生きる力という観点で考えると、問題の本質が見えるようになり、保護者に納得してもらえる説明もできました。自分でもうまい言葉を思いついたと思っていたら、平成8年7月の中教審(中教審)第一次答申に、現行指導要領の理念として華々しく登場しました。生きる力は、次のように説明されました。

- ・自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力
- ・自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性
- ・たくましく生きるための健康や体力

この説明には不満でした。やさしいことを難しく言い換えていると感じたからです。生きていくために必要な力とは何か、と考えたら「人間関係を築く力、礼儀や作法、障害を乗り越える力、善悪の判断力、ねばり強さ、失敗を恐れない態度、…」といった具体的な文言が浮かび、しっかりと受け止めることができるでしょう。

朝のラジオ番組を何千日も担当した山谷親平(故人、山谷入り子国會議員の父)氏は、「抽象論を好む人は、文化程度が低い」と何度もラジオで話していましたが、学校現場は具体的に考え実践していくことが大切です。そうしなければ成果も得られないと思います。平成24年完全実施の新指導要領は、生きる力を育むという理念を継承します。いじめや不登校、青少年の引き起こす事件などの現状は、生きる力が育まれていない根拠となるもので、継承は当然でしょう。

始業式(1月8日<大志を抱け>)

私は、「日本のために働く」を呪文のごとく口ずさみながら、あるいは公言して生きています。どうしてそうするかというと、自分を励まし奮い立たせるためです。日本のために働こうとする者が、そんな弱気でどうするんだ、そんなことぐらいで根をあげてどうするんだ、といった具合にです。「自分のために」と考えると、自分可愛さで、弱気になったり迷ったりしてしまうかもしれません。「日本のために」と考えると、頑張れるし、結局は自分のためになりました。

皆さんも自分なりに自分を励まし奮い立たせるような方法を考え出して、目標に向かってほしいと思います。

将棋界には、「着眼は大局 着手は小局」という箴言しんげんがあるそうです。眼を着けるところは大局を、手を着けるところは小局からという意味です。生徒には、大きな目標に向って着実な歩みを期待したいものです。今の日本人の多くに感じる思考形態というか、物事へ取り組む最初の考えや行動に、「自分のため」が多過ぎるように思います。何とか改めたいものと考えています。まず自分との考えでは、欲望の赴くままに行動する人間を増やすことはあっても減らすことはできないでしょう。

秩序の維持はとても大切

暴力、恐喝、いじめなど、何でもありの無法地帯、と思えた学校に勤務したことがあるでしょうか。かつて西中も、そのような時があったようですが、このような学校では、正常に授業ができないので、当然のことながら学力は低い。正義感などもっていると生きていけないのか、見て見ぬふりも多い。世の中集団生活があるところには、必ず決まりはあるものですが、無法がまかり通り、教師への信頼も失墜して、とても学校とは言えない状況です。

昔、ある学校に、転入前の学校で四天王といわれた生徒が転入してきました。転入間もない頃、この生徒は、「なんてまじめな学校なんだ、まじめでつまらない」と、年中ぶつぶつ言っていました。しかし、しばらくして、ある日突然、模範生に大变身してしまいました。

きっかけは、昔の仲間と再会し、仲間のあまりの変わり様に衝撃を受けたことでしたが、それまで、気長に腹も立てず、ねばり強く決まりを守らせようとした担任の姿がありました。担任の地道な努力が、大变身につながったものと思っています。

謙虚でありたい

神社の宮司と権宮司(ごんぐうじ)はどちらが立場が上か、と問うと、大方が権宮司と答えるのだそうです。権力の権が頭についているのですから、どこか偉そうに感じるのでしょう。権という文字の意味するところは、仮(か)という意味なのだそうです。したがって、権宮司は仮の宮司ですから、宮司の方が立場が上ということになります。会社だったら、社長ではなく副社長です。

権力とは仮の力であっていつまでも備わるものでないこと、皆さんが頭を下げてくれるのは、自分が立派だからではなく立場に頭を下げている、ことを忘れない人間でありたいものです。世の中には誤解している人が多いように思いますが。